

京都大学のGoogleテナントでの 生成AI活用に向けた取り組み

京都大学 情報環境機構
古村 隆明

京
都
大
学

KYOTO UNIVERSITY

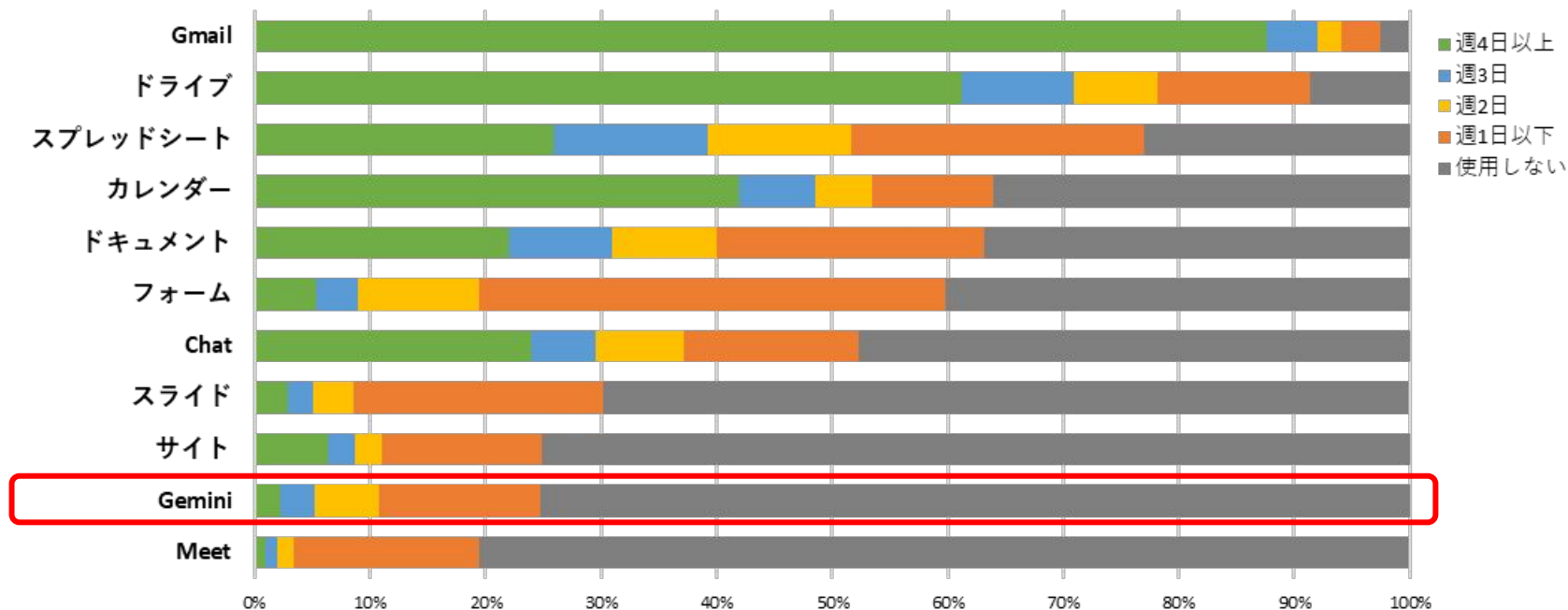


京都大学での Google Workspace 利用状況

- 全教職員（約13,000名）向け
- Google Workspace for Education
 - Gmail, Google ドライブなどを中心に活用中
- Geminiアプリ：2024年10月から利用可
 - 全教職員が追加費用無しで利用可能
 - 入力データを学習に利用しないことを確認
 - グループウェア掲示板でサービス開始を周知

利用者アンケート結果

2024年12月～2025年1月にかけて実施、回答者数801名



Geminiアプリ利活用方法 公開

まだ仕事に使ったことがない人多そう

目的

- まだ使ったことがない人に、生成AIを使ってみて欲しい
- （業務改善に活用してもらいたい）

<https://u.kyoto-u.jp/gemini-use>（一般公開中）



生成AIを利用するその他の取り組み

グループウェアの操作方法に関するチャットボット

- 管理者

これまでに作成してきたPDFマニュアルを NotebookLM にアップロードするだけ

- 利用者

NotebookLM のプロンプトで自由に質問する

<https://u.kyoto-u.jp/gwbot> （学内ユーザ限定）

課題

- 利用状況の把握が困難
 - 利用者数などを確認する方法が提供されていない（2025年5月現在）
 - アンケートなどで把握する必要がある
- 利用回数などの上限が不明確
 - Gemini によると「一般的な利用規約の範囲内での使用が求められます」
 - Deep Research は 10回/月・人 と記載
- Geminiを冠したサービス・モデルが多数ある
 - サービス: Gemini, Gemini for Google Workspace, Gemini Advanced, ...
 - モデル: Gemini Ultra, Gemini Pro, Gemini Flash, ...
 - 区別が難しく混乱を招く

まとめ

- 生成AIを活用してもらうための資料を
生成AIを活用して作成した
 - 資料の骨格は人間が作成、飾りの部分は生成AIが作成
 - 生成AIを使ってみたい
- マニュアルに記載された情報を元に
チャットで回答するサービスを運用中